

## 引用文献

- 秋山美紀 (2019). ポジティブ心理学を活かした職場活性事例. *Nursing BUSINESS*, 13(1), 61-64.
- Bandura, A. (1971). *Social learning theory*. Morristown, NJ : General Learning Press.
- Benner, P. (2001)/井部俊子監訳(2005). *Benner 看護論 新訳版—初心者から達人へ*. 医学書院.
- Benner, P., Tanner, C.A., Chesla, C.A. (1996)/早野 ZITO 真佐子(訳) (2015). *Benner 看護実践における専門性 達人になるための思考と行動*. 医学書院.
- Bridges, W. (1980)/倉光修, 小林哲郎訳(2014). *トランジション—人生の転機を活かすために*. パンローリング.
- Chick, N., and Meleis, A. I. (1987). Transitions : A nursing concern. In P. L. Chinn(Ed.), *Nursing research methodology : Issues and implementation* (pp.237-257). Rockville, MD : Aspen.
- 伊達由起子 (2014). 夜勤帯で問題が発生した時のリーダーシップ～組織の中で役割を認識して行動する～. *小児看護*, 37(7), 883-887.
- Dawson D., Reid K. (1997). Fatigue, alcohol and performance impairment. *Nature*, 388(6639), 235.
- 土井文博 (2010). 自己呈示・役割距離. 日本社会学会社会学事典刊行委員会(編), *社会学事典*(pp.134-135). 丸善.
- Drucker, P. F. (2000). プロフェッショナルの条件—いかに成果をあげ、成長するか—. ダイヤモンド社. pp.185-186.
- Schön, Donald.A. (1983)/ 柳沢昌一, 三輪健二監訳 (2007). *省察的实践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考—* (pp.50-75). 鳳書房.
- Ericsson, K.A., Krampe, R., and Tesch-Romer, C. (1993). The Role of Deliberate Practice in the Acquisition of Expert Performance. *Psychological Review*, 100(3), 363-406.
- 萩本孝子, 笠松由佳, 相澤恵子, 柳井晴夫. (2014). 看護師長の承認行為尺度の開発. *日本看護管理学会誌*, 18(1), 56-65.
- 速水敏彦, 橘良治, 西田保, 宇田光, 丹波洋子(1995) *動機づけの発達心理学*. 有斐閣.
- 林伸二. (2000). *組織心理学* (pp.21-38). 白桃書房.
- Henrik A. K. (2008). Nightshift work and risk of breast cancer and other cancers—a critical review of the epidemiologic evidence. *Scandinavian Journal of Work, Environment & health*, 34(1), 5-22.
- 東堤久恵, 青山ヒフミ, 勝山貴美子 (2012). 就任初期の看護師長が役割移行において役割を取得するプロセス—困難の体験に関連した役割の取得からの検討—. *大阪府立大学看護*

- 学部紀要, 18(1), 11-21.
- 平野弥生, 高橋明子, 佐藤孝子 (2009). 中堅看護師の役割遂行におけるストレス調査. 第40回日本看護学会論文集 看護管理, 40, 24-26.
- 船津衛, 安藤清志(編). (2002). 第1章 自己と他者. 自我・自己の社会心理学 ニューセンチュリー社会心理学 1 (pp.37-40). 北樹出版.
- IARC MONOGRAPHS ON THE IDENTIFICATION OF CARCINOGENIC HAZARDS TO HUMANS. (12 December 2019). International Agency Research on Cancer website, <https://monographs.iarc.fr/agents-classified-by-the-iarc/>
- 井部俊子, 箕輪良行監修 (2017). 図解 看護・医学事典(第8版). 東京: 医学書院. p22.
- 池田葉子 (2016). 臨床判断力開発のための「思考発話」. 看護教育, 57(9), 716-719.
- 生田奈美可 (2017). 患者となることで何が失われているかを理解するのに欠かせない役割理論. 月刊ナーシング, 37(12), 19-21.
- 稲田千晴, 北川真理子 (2010). 産褥期の母乳育児をする母親の母親役割の体験. 日本助産学会誌, 24(1), 40-52.
- 岩澤由子, 相澤恵子 (2017). 評価指標データの分析結果例(時間外労働時間・認知症・誤薬). 看護, 69(4), 134-136.
- 勝原裕美子, ウィリアムソン彰子 (2005). 新人看護師のリアリティ・ショックの実態と類型化の試み-看護学生から看護師への移行プロセスにおける二時点調査から-. 日本看護管理学会誌, 9(1), 30-37.
- Kizilos, M. A. (2014). 第1項強さとストレッチ: OJD の原動力. MaCauley, C.D., Derue, D. S., Yost, P. R. Taylor, S. (編), / 漆嶋稔(訳)(2016). 経験学習によるリーダーシップ開発 米国 CCL による次世代リーダーシップ育成のための実践事例. 日本能率協会マネジメントセンター.
- Kolb, D.A. (1984). *Experiential Learning*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- 小西由起子, 撫養真紀子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ (2014). 看護職における再就職者の組織社会化の様相. 日本看護管理学会誌, 18(1), 27-35.
- 厚生労働省(2018). 基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取り扱いについて. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000205633.pdf>
- 久保真人, 田尾雅夫 (1994). 看護婦におけるバーンアウトストレスとバーンアウトとの関係一. 実験社会心理学研究, 34(1), 33-43.
- 黒田由彦. (2007). 社会的中範囲理論一役割理論. 月刊ナーシング, 27(12), 195-200.
- Lazarus, R. S., Folkman, S. (1984)/本明寛, 春木豊, 織田正美(監訳)(1991). ストレスの心理学 認知的評価と対処の研究. 実務教育出版.
- Lerner, J.S., Keltner, D. (2001). Fear, anger, and risk. *Journal of Personality and Social Psychology*, 81(1), 146-159.

- 松尾睦 (2011). 職場が生きる人が育つ「経験学習」入門. ダイヤモンド社.
- Michael, A. W.(2012)/高橋美保(訳) (2016). チームワークの心理学 エビデンスに基づいた実践へのヒント. 一般財団法人 東京大学出版会.
- Meleis A.I. (2010)/片田範子(監訳)(2019). 移行理論と看護-実践, 研究, 教育-. 学研メディカル秀潤社.
- Meleis A.I., Swendsen, L. (1978). Role supplementation:An empirical test of a nursing intervention. *Nurs Res*, 27, 11-18.
- 水野暢子 (2013). 看護中間管理者のキャリア発達過程とそれに関連する要因. *日本看護研究学会雑誌*, 36(1), 81-92.
- 宮川操, 安原由子, 谷岡哲也 (2012). 7 対 1 看護体制導入後の急性期病院一般病床における看護師の人員配置に対する評価. *四国医学雑誌*, 68(3,4), 125-130.
- 宮子あずさ (1997). 眠れない入院患者への対応. *JIM*,7(10), 838-839.
- 森岡清美, 塩原勉, 本間康平 (1993).新社会学事典 (pp.1431-1432). 有斐閣.
- 無藤隆, 森敏明, 遠藤由美, 玉瀬耕治 (2004). 心理学 (p.480). 有斐閣.
- 日本看護協会(2012). 2008 年 時間外労働、夜勤・交代制勤務等緊急実態調査報告書.  
<https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/yakinkotai/chosa/pdf/2010all.pdf>
- 日本看護協会 (2013). 看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン. 日本看護協会 pp.14-16
- 日本看護協会 (2015). 2014 年看護職の夜勤・交代制勤務ガイドラインの普及に関する実態調査報告書.  
<https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/yakinkotai/chosa/pdf/2015hokoku.pdf>
- 日本看護協会 (2018a). 日本看護協会調査研究報告<No.93> 2017 年病院看護実態調査. 日本看護協会出版会.pp32-33
- 日本看護協会 (2018b). 日本看護協会調査研究報告<No.92> 2017 年 看護職員実態調査. 日本看護協会出版会. p.65
- 日本看護協会看護婦職能委員会(編) (1995). 看護婦業務指針. 日本看護協会出版会. p.89
- 太田肇 (2019). 「承認欲求」の呪縛 (pp.26-29). 新潮社.
- 小山田恭子 (2009).我が国の中堅看護師の特性と能力開発手法に関する文献検討, *日本看護管理学会誌*, 13(2),73-80.
- Rogers A.E., Hwang W.T., Scott L.D., Aiken L.H., Dinges D.F. (2004). The working hours of hospital staff nurses and patient safety. *Health Aff (Millwood)*, 23(4), 202-212.
- 済生会熊本病院 (2019). 2018 救急統計. p.5. <http://sk-kumamoto.jp/issue/kyukyutokei2018.pdf>
- 佐野明美, 平井さよ子, 山口桂子 (2006). 中堅看護師の仕事意欲に関する調査-役割ストレス認知及びその他関連要因との分析-. *日本看護研究学会雑誌*, 29(2), 81-93.

- 佐々木司, 松元俊 (2013). 16 時間夜勤を行う看護師の主観的眠気の発現. *労働科学*, 89(6), 218-224.
- 嶋田聡子 (1999). 中堅看護師の概念の明確化, *神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録*, 24, 56-63.
- 杉浦正和 (2013). 役割理論の諸概念と職場におけるロール・コンピテンシー. *早稲田国際経営研究*, 44, 15-29.
- Schlossberg, N.K., Waters, E. B., Goodman, J. (1995). *Counseling adults in transition: Linking practice with theory*, 2nd ed. New York, NY : Springer Publishing Co.
- 武村雪絵 (2016). 現場のダイナミクスから析出する「看護管理の知」. *日本看護管理学会誌*, 20(2), 97-103.
- 谷口初美, 山田美恵子, 内藤知佐子, 内海桃絵, 任和子 (2014). 大卒新人看護師のリアリティ・ショックスムーズな移行を促す新たな教育方法の示唆一. *日本看護研究学会雑誌*, 37(2), 71-79.
- 田尾雅夫. (1999). 組織の心理学 [新版] (pp.72-73). 有斐閣.
- 寺澤明子 (2003). プリセプターシップにおけるプリセプターの看護専門職としての成長過程. *日本赤十字広島看護大学紀要*, 3, 45-52.
- 都立病院におけるインシデント・アクシデント・レポートの第 17 回集計結果について. (2018, 11 月). 東京都病院経営本部ホームページ, <http://www.byouin.metro.tokyo.jp/hokoku/anzen/iryouanzen301112.html>
- 強瀬美佐子, 中澤明美, 長谷川里香 (2012). 若い看護師の求めるリーダー看護師像—グループインタビューによる語りの分析—. *第 42 回日本看護学会論文集 看護管理*, 42, 280-283.
- 山品晴美, 舟島なをみ (2006). 病院においてリーダー役割を担う看護師の行動の解明—勤務帯リーダーに焦点を当てて—. *看護教育学研究*, 15(1), 48-61.
- 山品晴美, 舟島なをみ, 三浦弘恵, 亀岡智美 (2011). 勤務帯リーダー役割自己評価尺度の開発. *看護教育学研究*, 20(1), 19-29.